

考えを深め合う授業のポイント！！

5月から学校訪問を行うなかで、子供たちがいきいきと活動する授業、じっくり考えて思考力を伸ばす授業、子供たちの力をしっかりと伸ばす授業などすばらしい授業をたくさん見せていただきました。

特に、交流活動の場面では、子供たちの考えが深まっていく様子が見られました。その秘訣はどこにあるのでしょうか。

課題設定の工夫 〈北方中 堤 賢二郎 先生 数学〉

修学旅行で行った京都の地図をもとにした課題設定を工夫することで、生徒の興味関心を喚起し、主体的な交流活動になっていました。

観点の提示 〈多良小 山崎 直彦 先生 社会〉

見通しで3つの観点を提示することにより、何について話し合えばよいのかがわかり、活発な交流活動につながっていました。

少人数での交流活動の工夫

〈福富小 江頭 美里 先生 生活〉



班で一つの考えにまとめるときに付箋を使うことで、自分たちの考えが可視化され、活発な交流活動につながっていました。

〈唐津第一中 先村 健 先生 美術〉



ホワイトボードに自分たちの考えを比較・整理しながら書くことで、友達の良い考えに触れることができ、思考の幅が広がっていました。

連載 第1回

「子供主体の授業づくり」のために

—△△する教師から〇〇する教師へ—

子供主体の授業を構築するには、教師の姿勢が大切です。授業づくりの基本となる教師の姿勢を「△△する教師から、〇〇する教師へ」という形で掲載したいと思います。第1回目は教頭先生から教えていただいた内容をご紹介します。

【自分が説明してしまう教師から、子供が説明することをコーディネートする教師へ】

「子供の考えをつないで整理し、子供自ら深めるようにコーディネートすることが大切です。先生方が工夫をし、子供たちの色々な考えを引き出す素晴らしい授業を見ます。あと一歩ここを改善できたらと思うことは、引き出した子供の考えを先生がしゃべって説明してしまうことです。たとえたとどしくても子供自身が話すことに意味があります。教師がしゃべりすぎない授業をめざしたいものですね。」

授業がおもしろくなる「めあて」の設定

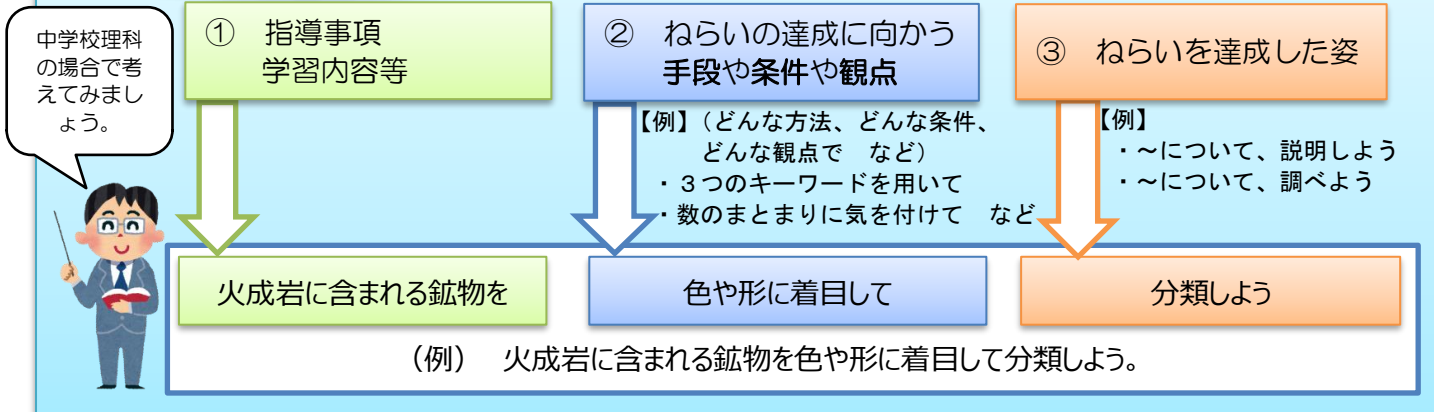
西部型授業 その1 「つかむ」過程 一学力向上の手びき「Q&A」より一

学校訪問では、たくさんの先生方の素晴らしい授業を参観させていただきました。子供の心をつかむ、主体的な学びにつながる授業は、必ずよいめあてが設定されていました。どういうめあてがよいのか、日ごろ提示しているめあてと比較して確認してみたいでしょうか。

めあてとは

ねらい（つけたい力＝単元や単位時間の指導目標）を達成するための課題であり、ねらいを達成した子供の姿がイメージできるものが望ましい。

めあてに入れるとよい要素



実践例

Goal 臓器提供について、さまざまな立場から考え、自分ならどう意思表示するか考えよう。

青嶺中 坂井 謙太 先生
社会 「これからの人権保障（臓器移植）」

めあて 生鮮食品の特徴を見つけ出し、賢く消費する方法を考えよう！
生鮮食品の加工食品

国見中 川上 優 先生
家庭 「食品の選択と保存」

よいめあて いろいろ…

「様々な発電技術の特徴から、日本の将来の最適な電源構成を考えよう。」（西部中 富永修先生 技術）

「ボンド先生に、友達や家族など身近な人について、4文以上で紹介する文を書こう。」

（唐津第五中 小松聖子先生 英語）

「座席表で自分の場所をみんなに分かるように説明しよう。」

（大浦中 桑原英彰先生 数学）

各学校からの声

- 学力向上対策のポイントとして教師の「意識改革」が挙がっていましたが、その通りだと共感しました。一人一人の教師が自分の課題を意識し、校内研の取組みに沿った改善を少しずつしていくだけで学力向上に結び付くと思います。
- 模擬授業の写真を見て、整理された板書だと感じました。授業は子供がわかるためにしなければならず、そのために可視化することや学習の道筋がわかる板書が重要だと感じました。